

伸銅品

平成19年上半期の伸銅品需要は、511千トンと前年同期を△3.8%下回り、平成17年上期をやや上回る水準となった。全般的に、半導体を中心とした電子デバイス分野の在庫調整の影響を受けているが、前年(平成18年)5月に史上最高値を記録した銅価が、その後も高留りしていることも見過ごすことは出来ない。

金属製品は、日用品・水栓金具など弱含みの住宅着工や銅価の影響もあり需要は伸び悩んだ。また、ガス機器はLPGガスボンベの定検期間延長が影響した。

電気機械は、携帯電話・デジタル家電・自動車用などの端子・コネクタと半導体向けと共に、昨年下半年のピークからは減少傾向にある。配電制御装置なども弱含みで推移している。

輸送機器は、輸出用自動車向けを中心に高位に安定した需要は見られるものの、ピークは過ぎたとの見方がある。

精密機械は低調なままの推移が続いた。

一般機械は、空調機器が大きな動き無く昨年をやや下回る水準で推移した。アウトインの増減に大きな変化は見られないが、従来ほどの夏場と冬場の繁閑の差は見られなくなっている。

建設業は、板条と銅管共に低調な動きに終始したが、背景として銅価高の需要影響が現れている。

このため、内需は415千トンと前年を△4.3%下回ることとなった。

輸出は、電子材向け条製品を中心に需要は堅調に推移しており、高水準の前年からは微減(△1.3%)に留まった。

電線

平成19年上半期の銅電線需要は約42万5千トンで前年同期1.1%の減となった。3年連続して前年同期比プラスが続いた後で4年ぶりに前年同期比マイナスに転じた。また部門別には、通信と自動車以外の部門は前年同期比マイナスとなった。

通信部門は、NTTの光化によりケーブルは大幅に減少したが、固定電話回線維持のための一定規模の需要は継続しており、近年大きな変動はない。

電力部門は、電力会社の老朽設備更新による需要により2005年度以降前年比プラスとなっている。2007年度も引き続き堅調な需要が見込まれる。

電気機械部門は、民間設備投資が順調なことから重電部門は好調であるが、家電、電子通信部門は海外シフトに歯止めがかからず低調である。

自動車部門は、07年度国内自動車生産が1,170万台を超えると見られ、これを受けて電線需要も過去最高を記録した06年度を上回る高い水準で推移している。

建設・電販部門は、国内景気回復に伴い民間設備投資が好調に推移しているものの、70万円台から再び100万円に近づく銅価の影響で動きに鈍さが見られる。但し、水準そのものは悪くなく、また件名案件もあることから年後半の回復が期待される。

その他内需部門は、需要動向に各小部門間の格差が見られ、特に間接輸出が低調で、総じてやや弱含みに推移している。

輸出部門は、低付加価値製品の海外生産移行と現地メーカーの台頭が進むことにより、厳しい需要環境にある。一方、中近東のインフラ向け電力ケーブルの受注は好調である。

鉱山

経済産業省は平成19年度の民間設備投資計画調査の基礎資料として、銅地金需給見通しを策定した。

生産は玉野、別子製錬所の能力増強により前年度比5.3%増の163万3千tと2年連続で最高記録を更新する。

内需(見掛消費)は4.4%増の132万7千tと3年連続で増加し、平成9年度以来の高水準となる。

部門別(報告値)には、電線向けが3.0%増の79万9千tと6年連続で増加し、平成12年度以来の高水準となる。伸銅品向けは0.7%増の46万tにとどまる。

電線出荷は1.9%増の89万tと5年連続で増加する。内訳は内需が1.9%増の85万7千tと増加、輸出も1.5%増の3万3千tと増加に転じる。内需の部門別には通信が横ばいのほかはすべての部門が増加する。

伸銅品生産は0.3%減の104万7千tと2年ぶりの減少、輸出は6.2%増の20万tと2年連続で増加する。品種別には自動車生産の好調持続で黄銅板条が引き続き増加するが、銅管は輸出を中心に減少し、銅板条、青銅板条はIT材の在庫調整入りから内需が減少する。

生産が内需以上に増加するため、輸入は25.5%減の6万tと大幅に減少するのに対し、輸出は生産増に加え中国の需要増大を背景に3.3%増の38万tと平成13年度以来の高水準となる。

在庫は12.3%減の10万t、在庫/消費比率は3.9週間と、需給は引き続きタイトに推移する。

平成19年上期出荷実績 単位:千トン

部門	18年			19年	
	上期	下期	計	上期	前年同期比(%)
金属製品	68	67	135	62	△8.5
電気機械	153	150	303	146	△3.6
輸送機械	39	37	76	37	△4.9
精密機械	7	7	14	6	△16.5
一般機械	74	67	141	72	△2.1
建設業	9	8	17	7	△27.5
その他内需	84	86	170	85	1.1
内需計	434	422	856	415	△4.3
輸出	97	98	195	96	△1.3
合計	531	520	1,051	511	△3.8

(注)前年比は数量の四捨五入前の増減率(出典)日本伸銅協会

平成19年上期出荷実績 単位:千トン

部門	18年			19年	
	上期	下期	計	上期	前年同期比(%)
通信	9	10	19	9	0.9
電力	38	36	75	38	△0.8
電気機械	104	105	209	103	△1.0
自動車	43	45	88	43	1.3
建設・電販	190	197	386	188	△1.1
その他内需	31	32	63	30	△3.0
内需計	415	425	840	411	△0.9
輸出	15	17	32	14	△5.9
合計	430	442	872	425	△1.1

(注)1.四捨五入のため計と合わない場合もある。  
2.前年同期比は数量を丸める前の原伸び率(出典)日本電線工業会統計

平成19年度銅地金需給見通し 単位:千トン

項目	18年度見込み	19年度見通し			前年比%
		上期	下期	実績	
期初在庫	108.4	114.0	100.0	114.0	5.2
生産	1,550.7	801.0	832.0	1,633.0	5.3
国内鉱出	0.3	0.0	0.0	0.0	△100.0
海外鉱出	1,349.5	703.0	735.0	1,438.0	6.6
その他出	200.9	98.0	97.0	195.0	△2.9
輸入	80.5	30.0	30.0	60.0	△25.5
供給計	1,739.6	945.0	962.0	1,807.0	3.9
消費(報告値)	1,251.3	627.0	652.0	1,279.0	2.2
(見掛値)	1,271.2	665.0	662.0	1,327.0	4.4
電線	775.6	391.0	408.0	799.0	3.0
伸銅品	456.7	226.0	234.0	460.0	0.7
その他	19.0	10.0	10.0	20.0	5.3
輸出	354.4	180.0	200.0	380.0	7.2
需要計	1,605.7	807.0	852.0	1,659.0	3.3
期末在庫	114.0	100.0	100.0	100.0	△12.3
過欠補正	19.9	38.0	10.0	48.0	

(出典)経済産業省